

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成19年10月11日

【評価実施概要】

事業所番号	1570600724
法人名	社会福祉法人 大形福祉会
事業所名	グループホーム地利目木
所在地	新潟県新発田市佐々木字地利目木2610 (電話) 0254-32-6100

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 19年 9月 23日

【情報提供票より】 19年 7月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 12月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18人
職員数	17人 常勤 11人、非常勤 6人、常勤換算 14.75人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階 建ての 1階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (19年 7月現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	8名	要介護2		5名	
要介護3	4名	要介護4		1名	
要介護5		要支援2			
年齢	平均 86.1歳	最低	73歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北越病院、布施医院、新発田市歯科医師会(野田歯科医院)
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者への声かけや態度、来訪者への挨拶など、職員の対応は明るくにこやかである。職員は、利用者一人ひとりがホームでの生活の中で活躍したり役割を持てるよう本人の力を引き出すことを心がけている。調査当日は秋分の日であったので、利用者から教わりながらおはぎ作りをしている様子がかがえた。また、利用者一人ひとりに合わせた高さの洗濯物干しを用意したり、畑づくりの支援、ホームで使用するカーテン等を利用者に作ってもらうなど、利用者の能力や得意なことを活かす取り組みがなされている。同敷地内にショートステイ事業所と小規模多機能型居宅介護事業所が併設されており、看護師や栄養士からの協力や、緊急時の協力等の体制がとられている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価結果は、会議の議題として職員全員で共有するとともに運営推進会議でも報告し、改善策を検討して実施した。玄関の施錠については、利用者の状況に合わせて見守りや付き添いをし、日中は常時開錠するようにした。口腔ケアについてはチェック表を作成して毎食後確実に実施するように努めた結果、利用者、職員ともに習慣となってきた。定期健康診断は、利用者の出身市町村の基本健診通知を家族からホームに持ってきてもらい、それぞれ受診を支援している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、職員一人ひとりが実施した。管理者及び職員は、評価の過程が自らのケアを振り返り気づきを得る機会であることを意識している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で運営推進会議を開催している。利用者代表、小規模多機能利用者の家族、地域の自治会長、地域包括支援センター職員等からメンバーとして参加してもらっている。グループホーム利用者の家族については、それぞれの家族の状況もあり、現在は参加が得られていない。事業所の運営状況の報告のほか、外部評価結果についても報告し、意見をもらっている。地域の代表から、災害時の地域と事業所との協力体制の必要性についても意見が出され、今後具体的に検討していく方向である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	日頃から、何かあれば伝えてもらえるよう家族に声をかけるとともに、定期的に文書で利用者の生活の様子を報告している。法人としての苦情受付体制を整備し、玄関に苦情受付箱も設置して働きかけている。電話や面会時等での家族とのやりとりについては詳細に記録して全職員に情報伝達をし、意見や希望に直ぐに対応できるよう努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	周辺に住宅は少なく、現在は老人会やボランティア団体等の活動が少ない地域であるが、ホームの広報誌の回覧や運営推進会議の場、自治会長を通じて働きかけを行ったり、地域の行事に参加している。運営推進会議で地域の方から提案があり、今後、災害時の避難訓練を合同で行なうことを検討している。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の意見も取り入れて作成したこれまでの理念に、入居者がその人らしく安心して地域の中で暮らすことを支援するという地域密着型サービスとしての理念を加え、意識的に取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、会議の場や日々のサービス実践の場面で、ケアを提供する上で大切なことは何かを職員と話し合い、確認し合っている。		
2 - 2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	家族が参加する行事や運営推進会議の機会に、運営理念に沿ったサービス提供について家族や地域の方に話をし、理解してもらえるよう働きかけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	周辺に住宅は少なく、現在は老人会やボランティア団体等の活動が少ない地域であるが、ホームの広報誌の回覧をしたり、地域の行事がある場合には参加している。地域の自治会長には運営推進会議に参加してもらうほか、日頃からコミュニケーションをとって働きかけている。災害時の避難訓練について、運営推進会議で地域からの提案もあり、今後合同で行なうことを検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果は職員全員で共有し、改善策を検討して実施した。今回の自己評価も職員一人ひとりが実施しており、評価の過程が自らのケアを振り返り気づきを得る機会であることを意識している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、ホームの運営状況の報告のほか、外部評価結果や災害時の協力体制等、多岐にわたり意見交換を行なっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは定期的に連絡を取り、情報交換を行なっている。地域包括支援センター職員からは運営推進会議に参加してもらっているほか、成年後見に関して協力を得るなど、日頃から連携を図っている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待関連の法令についての研修を実施し、理解を深めるよう取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、預かり金の出納帳の写しとともに、入居者のホームでの生活について文書で報告している。また、受診にはホーム職員が付き添っているため、そのつど家族に結果を報告している。定期的にホームの広報誌も発行し、ホームの活動や職員の異動等を知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、何かあれば伝えてもらえるよう家族に声をかけ、玄関に苦情受付箱も設置して働きかけている。電話や面会時等での家族とのやりとりについては詳細に記録して全職員に情報伝達をし、意見や希望に直ぐに対応できるよう努めている。		家族の状況等もあり、現在、グループホームの利用者家族の運営推進会議への参加は得られていない。今後、家族の意見を運営に反映するために、運営推進会議にホーム利用者家族の参加もお願いしたい。
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行なうユニット会議及び全体会議で職員から意見が出され、運営に反映されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内に複数の事業所があるため定期的に職員の異動も生じるが、できるだけ利用者にダメージがないよう異動の人数は必要最小限にし、居室担当の職員が変わった場合は個別の家族に連絡したり、ホームの広報誌でお伝えしている。利用者への支援が変わらずスムーズに行われるよう、引き継ぎも十分に行なっている。また、隣接する他事業所への異動になった職員は、異動後も時々ホームを訪れ、利用者と一緒に継続して関わりを持つようにしている。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しも適宜行われている	認知症ケアや介護、感染症、緊急時対応、災害対応、身体拘束、重度化への対応等、各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。見直しも随時行なっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で、新採用・中堅・管理職等の段階に応じた研修体系が整備され、実施されている。ホームでも毎月の会議の際に勉強会を行なっている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の複数のグループホーム同士が連携を取っており、意見交換や親睦を行なっている。市内の他のグループホームとは交流会が予定されたことがあるが、延期になっており、まだ実施されていない状況である。		今後は、法人外の他のグループホームともネットワーク構築を期待したい。
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者や計画作成者、介護主任等が他の職員の悩みや相談を聞いている。法人内の他グループホームの職員との親睦の機会も持っている。職員専用の休憩室も確保されている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には事前に本人・家族との面談を行うほか、ホームの見学に来てもらい、職員やホームの雰囲気を本人に知ってもらうようにしている。また、お試し利用をもらった上で入居判定会議を行ない、検討している。入居後、本人の不安を軽減するため、家族にも来訪や電話等で協力してもらい、家族が来られない場合は本人とともに自宅に行く等、徐々に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員主導になるのではなく、利用者本人ができることを主体的に行ってもらえるよう、本人自身の力や行動を引き出す働きかけに努めている。また、利用者からおはぎの作り方を教わったり、ホームで使うカーテンを利用者に縫ってもらうなど、日々の生活を利用者からも支えてもらっている。		
13 - 2	28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居した当初は、ホームへの来訪や電話を家族にお願いし、利用者本人がホームに馴染めるよう協力してもらっている。遠方でなかなか面会が難しい家族にも毎月本人の様子を文書で報告し、関係が途切れないよう働きかけている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを利用して、本人の希望や意向を日々の関わりの中から把握するよう努めている。介護計画作成の過程で、可能な利用者にはカンファレンスにも参加してもらい、希望や意見を聞いている。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントを利用して、利用者一人ひとりの生活歴や趣味、特技等の把握に努めている。畑仕事やお祭りでの踊り等の活動につなげたり、居室に趣味の物品や若い頃の写真を飾るなど、生活に活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたって、モニタリングやカンファレンスは複数の職員が参加し、気づきや意見を出し合っている。可能な場合には利用者本人にもカンファレンスに参加してもらい、希望を聞いている。家族には面会時や電話等で意見を聞いている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3～6ヵ月の間で定期的にモニタリングし、介護計画の見直しを行っている。状態変化があった場合は、随時見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	管理者は勤務ローテーションに入らず、フリーに動けるようにしており、利用者の希望による個別の外出等にも柔軟に対応している。受診の付き添いもホームで行っている。入居前のお試し利用の際にも利用者や家族の状況に応じてホームから迎えに行ったり、家族の面会が難しい場合は、職員が本人と一緒に自宅に行くこともある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、入居者それぞれが入居前からのかかりつけ医に受診している。遠方の場合は、ホームの協力医をかかりつけ医としていただく場合があるが、その際も説明して同意を得ている。受診は職員が付き添い、入居者の状態を医師へ情報提供している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期の対応について、法人として指針を定めている。しかし、ホームとしての対応体制は未整備であり、医師、訪問看護ステーション等、重度化やターミナルケアに対応するために連携を図る医療機関の確保はまだできていない。		協力医院等にも相談しているが、ターミナルケアへの協力確保が難しい状況である。利用者の重度化や終末期にホームでの支援を継続する場合、連携を図る医療機関の確保が前提であるので、かかりつけ医、家族とも繰り返し話し合い、ホームとしての支援のあり方、体制を検討してほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけや対応は丁寧である。排泄の誘導も周囲に聞こえないように配慮して行っていた。しかし、排泄チェック表が、多数の目に触れる共用空間の洗面台の上に置かれていた。		利用者の個人情報他者の目に触れないよう取扱方法に留意してほしい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	趣味活動や入浴、外出など、利用者一人ひとりの希望やペースに沿って生活してもらえるよう支援している。無理強いせず、本人の気持ちや状態に合わせている。食事をゆっくり食べる方に対してはその人が食べるペースを見守り、食後の片付けも職員のペースではなく、入居者と一緒にテレビを楽しみ、見終わってから行っていた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者の好みや馴染み深い料理、季節感のあるものや畑で採れた野菜等を取り入れて作成している。買い物や調理、盛り付け、配膳、後片付け等は、利用者一人ひとりの能力や状態に応じて行ってもらっている。職員も一緒に食卓につき、会話を楽しみ、さりげなくサポートしながら一緒に食事している。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	24時間、利用者一人ひとりの排泄チェックをしてパターンやリズムを個別に把握し、できるだけトイレで排泄できるよう声かけや誘導をしている。夜間はオムツを使用する方もいるが、日中はすべての利用者がトイレに行くことができている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能である。利用者一人ひとりが希望する時間帯や回数に応じて入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これまで畑仕事に従事してきた利用者が多く、ホームの畑での作業を楽しんでいる。広いテラスにある草花の鉢植えの水やりや金魚の世話も利用者が行っている。洗濯物干しが出来る方には、一人ひとりに合わせた高さの物干し台をそれぞれ用意している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や食材の買い物のほか、個別の希望の買い物や自宅に私物を取りに行くなど、毎日一人ずつでも外出を支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを整備し、職員に周知しており、実際に拘束のないケアを実践している。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	前回評価に基づき、職員が一人になる時間帯等に鍵をかけている状態を見直し、日中は玄関に鍵をかけないようにした。2つのユニットの間にあるテラスへの出入りも自由にできる。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止や各種介護のマニュアルを整備して職員に周知している。事故等があった場合は報告書をまとめ、速やかに対策防止の検討をしている。1ヶ月後に対応策が適切であるか評価を行い、再発防止に取り組んでいる。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	応急手当のマニュアルを整備し、職員に周知している。法人内で救命救急法の研修をおおむね年1回行っている。		緊急時に対する職員の不安を軽減し、初期対応や応急手当が実際に適切に行えるよう、併設施設の看護師の協力も得て、利用者の急変やケガ、のど詰まり等ホームで実際に起こりうる場面を想定した実地訓練を繰り返し行うことが期待される。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	災害対応のマニュアルを整備するとともに、消防署の協力を得て避難訓練を年2回実施している。運営推進会議でも、地域の方から災害時の地域とホームとの協力体制の必要性について意見が出されており、今後検討していく予定である。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの1日の食事摂取量、水分摂取量をおおむね把握している。特に水分に関しては、食事やお茶の時間のほか、リビングにポットを用意して利用者が自由にお茶を飲めるようにし、十分に摂取できるよう配慮している。また、併設施設の栄養士から献立のチェックをしてもらい、栄養やカロリーのバランスについてアドバイスをもらって食事づくりに活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間には、テーブル、畳のスペース、ソファ等複数の居場所が用意され、利用者が思い思いに過ごしている。散歩の時に摘んできたススキを飾るなど季節感が感じられるように工夫したり、テラスにはたくさんの花鉢や洗濯物干しを置いて利用者の日常の活動につなげている。換気や空調管理が適宜なされ、トイレ等にも不快な臭いはない。音や光も不快ではない。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室にはクローゼットや棚が造りつけてあり、ベッドも基本的にはホームで用意しているが、使い慣れたテーブルやタンス、布団が持ち込まれていたり、趣味の品物や、本人の若い頃の写真や家族の写真等が飾られ、その人らしい居室づくりがされている。居室の入口にも一人ひとりがわかる目印をつけ、居室の間違いがないようにしている。</p>		